

隅田川流域クリーンキャンペーン実行委員会 10周年記念シンポジウム

隅田川の歴史・文化・環境を語るつどい

～魅力のある水辺の創出に向けて～

報告書

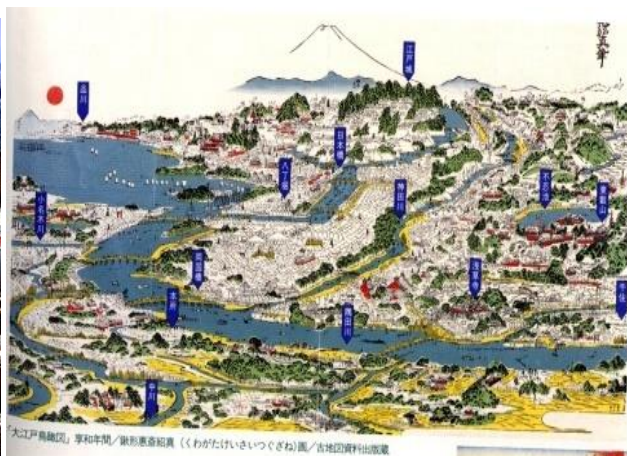
開催日時：平成27年10月24日（土）午後1時00分～

会場：第一部：台東区立 台東区民会館

第二部：水辺ライン隅田川・臨海域 クルージング



* 勝鬨橋と築地市場の遠景



* 鋏形恵斎紹真画“江戸鳥瞰図”(1809年)

隅田川流域クリーンキャンペーン実行委員会

＝この事業は河川整備基金の助成を受けて実施しています＝



隅田川ルネサンス

「隅田川の歴史・文化・環境を語るつどい」—魅力ある水辺の創出に向けて— 趣旨文

世界の素敵なまちには美しい川が流れ、そのまちを潤いのあるものにしていきます。川は人間にとって命の源泉であります。風格のある美しい街としての条件は、都市の骨格に川や山などの自然の要素と建物や橋などの人為的な要素がバランスすることによって成立するといってもよいでしょう。

また、川はその時代や社会を映し出す鏡ともいえます。江戸時代の隅田川の姿を葛飾北斎の浮世絵によってときの文化を知ることができます。現代に生きる私たちは隅田川の歴史と文化を後世に残し、継承していくことが大切だと考えています。

日本を代表する都市の川、隅田川はそのような文化と美しい風格のある街を支える川であってほしいと期待しています。人々がこころのふるさとをもつように、母なる川、隅田川をふるさとの川と呼べるようにしたいと願っています。われわれは隅田川が、人と人とが交流し、新しいコミュニティーの場となり、地域の賑わいを取り戻し、活力の源泉になることに思いを寄せています。そのために、隅田川クリーンキャンペーン事業を通して、母なる川隅田川に愛着をもち、より良い水辺環境を創り出していくことを目的に活動をしています。

隅田川は 戦禍の悲しいときも 刻み、過去の 悪臭と汚濁した姿を克服し、いきものの姿が見えるようになり、一步一步、前進しています。今日は、テラス整備、スーパー堤防の建設も進んできています。周辺の建物群もこれらの整備とともに徐々に街の姿が 変貌しつつあります。隅田川流域の市民の方々や、先人の関係者の努力により水質の改善、水辺の散策ができるように整備が進んできました。そのためには半世紀以上の時間を必要としました。このような努力が実を結び、春の桜まつり、夏の花火大会、レガッタ、灯籠流し、橋のライトアップ、オープンカフェなど平和で、楽しいイベントも年ごとに充実してきました。

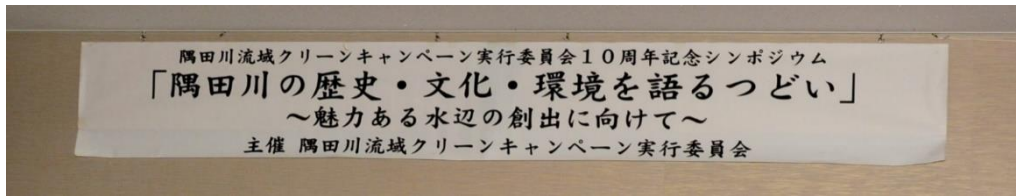
しかし、川はながれがある限り流域として繋がっています。隅田川に続く、上流河川や周辺の水路を連続した水と生きもののネットワーク造り、ユニバーサルデザインと水辺のアクセスなど、まだ、課題が残されています。さらに、近年は地震津波、水災害の激化に対して安全なまちづくりが喫緊のテーマとなっています。

われわれの運動は、隅田川とその周辺の環境の向上や美しいまちを目指した市民団体と個人が行政とも協働し、隅田川クリーンキャンペーンを展開してきました。平成 17 年度に発足してから、平成 27 年 6 月 20 日第 10 回目を迎え、200 名を超える参加者で成功しました。これを機会に、これまでの運動を振り返り、未来に向かって成果と教訓とすべき課題を明らかにするため、シンポジウムを開催することにいたしました。記念シンポジウム「隅田川の歴史・文化・環境を語るつどい」を平成 27 年 10 月 24 日（土）に開催いたします。

われわれは、構成する流域の市民環境団体とともに、行政機関、企業等のご協力を頂き、10 周年記念シンポジウムを成功させたいと考えています。

目 次

	ページ
1 開催にあたって挨拶	1
2 来賓挨拶	2
3 基調講演「江戸名所としての隅田川」	3
4 話題提供	
①「隅田川における都の取組」	5
②「隅田川・日本橋川の景観と舟運」	8
③「江東内部河川と親水活動」	12
④「新河岸川水系をめぐる巡る市民流域連携」	15
⑤「隅田川・臨海域の水質と生き物」	18
⑥「隅田川と三社祭舟渡御」	21
5 パネルディスカッション	26
6 シンポジウム会場風景	27
7 第二部 隅田川・東京湾臨海域クルージング	29
8 後援・協賛・協力・参加行政機関・企業・団体関係御芳名	30
9 過去 10 回のクリーン大作戦等の実績	31
10 実行委員組織	33



開催にあたって挨拶

実行委員長 土屋 十 圀

本日、隅田川クリーンキャンペーン実行委員会の10周年記念シンポジウムを開催するにあたり、一言挨拶を申し上げます。これまで、一斉清掃活動を継続できましたのは、隅田川流域の地元市民の皆様のご協力とともに、流域の環境団体の皆様、隅田川にゆかりのある沿川の企業の皆様、東京都・区役所、東京都公園協会等の皆様が、毎回、休日にも拘らず自主的・積極的に参加していただいたことによるものと思っております。この機会に改めて感謝申し上げます。

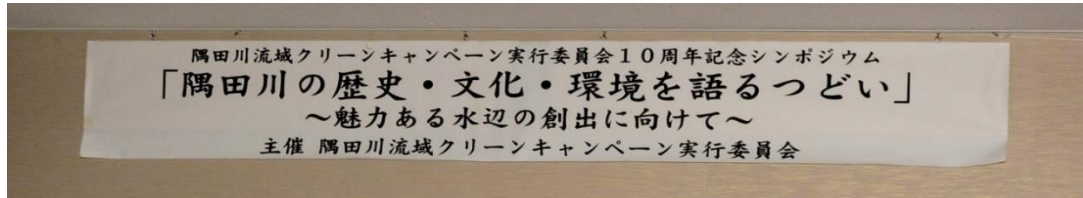
実行委員会の発足は、平成14年～16年、東京都建設局が主催する隅田川流域連絡会が開催され、隅田川の今後の河川整備、環境などの検討が進められてきました。その構成は、市民環境7団体、台東区、墨田区、中央区、江東区、北区、荒川区、足立区の参加をもって検討が進められてきました。ここでは、テラスの管理、川のいきものの棲息環境の向上、サイン・デザインの見える化、「隅田川の日」の制定、イベント開催などの議論がなされました。一旦、委員会は終了しましたが、ブルーテントの増加などもあり、もっと川の環境美化に協力したいとの市民団体の方々の熱意から年1回の一斉清掃活動を行うこととなりました。平成17年3月、第1回隅田川クリーン大作戦222名の参加で発足。翌年は台風で中止になりましたが、今年10回目を迎えることができました。市民主導の活動でしたが、東京都および公園協会等のご支援のもと、流域の区役所をはじめ、隅田川にゆかりのある舟運・観光・公園・建設等の企業からもご協力と協賛を頂き、これまで継続することができました。5回目には東京都公園協会から奨励賞を頂き、更に励まされてきました。年1回のイベントは、これまで総計延1,753名に達しています。

この間、東京新聞、主婦と生活社、地元紙の取材などマスコミを通じて各地に知られることになりました。企業が行う不定期のミニクリーン作戦も開催され、社員の皆様と我々の会員とが実施しています。

中でも、平成21年には、山形市立第七中学校の生徒127名が修学旅行の一環として隅田川で清掃活動していきました。地元の美しい最上川と都市河川の隅田川をどのように感じたことでしょうか。奥の細道・芭蕉翁のご縁だったのではと思います。この間、企業のCSR(社会的責任)を積極的に進める団体が多く、参加する企業が増加してまいりました。非常に心強く、我々の活動に弾みが付き、参加者も多くなりました。

さて、「川は文明のゆりかご」といわれ、世界四大文明の発祥地、すべてが川を中心に発展しています。東京も又、然り！今後も、クリーンキャンペーンを通じて地元の方々とともに、東京の母なる川・隅田川をふるさとの川と呼べるように、川づくりに貢献できることを願っております。この10年の活動を支え、貢献されてきた副実行委員長・高橋康夫さん、隅田川市民交流実行委員会理事長・糸井守(幹事)さんが、ともに若くして逝去されました。この機に、謹んで哀悼の意を示させていただきます。

本日のシンポジウムは「江戸文化論」の専門家・市川寛明氏の基調講演、更に、隅田川の「親水や景観・舟運」「生きものと水質」「水害と安全」「歴史と文化」をテーマに、実行委員会の構成団体、隅田川の上下流の環境団体の方々に話題提供を頂き、有意義なパネルディスカッションを行っていきたくと考えています。2部は隅田川ナイトクルージングで、参加者の方々と交流し、隅田川の夜景を楽しみたいと思います。



来賓祝辞

台東区環境清掃部参事 平野 穰 様



今日は、隅田川流域クリーンキャンペーン実行委員会10周年記念シンポジウムにお招きいただき有難うございます。

歴史をさかのぼると、隅田川は江戸時代前期より「水運の要衝」として発展し中期から後期にかけては、浅草・両国を中心とした「江戸随一の盛り場」として発展してきたと理解しています。しかし、私が育ってきた中で見てきた隅田川は「工業排水のための水路」のような川で、高度成長期の最中の一番汚れていた時期でした。小学校の移動教室のバスで隅田川の橋を渡るときにヤンチャだった私は「隅田川だ。鼻つまめ！」と叫んだものでした。

こんな隅田川を見て、多くの方々が、行政が、このままではいけないと思い、水質改善・環境改善に向けて幅広く行動を起こし、現在に至り、過去の悪臭と汚濁の姿を克服しつつあります。

台東区も「花火大会」「ハゼ釣り大会」などのイベントを通じて、皆様に隅田川に親しんでいただこうと微力ながら、取り組んでいるところであります。

また、「隅田川流域クリーンキャンペーン実行委員会」につきましても「隅田川クリーン大作戦」開始当初から後援し、参加させていただいているところであります。

長い歴史に育まれた隅田川流域は、興隆の歴史を伝える風俗や建物が今なお人々の生活の中に残っていて、賑わいのポテンシャルを秘めた場所です。

隅田川が東京を象徴する河川として、都会のオアシスとしてますます発展すること、さらに「隅田川流域クリーンキャンペーン実行委員会」がその牽引役となることを祈念して、私のご挨拶とさせていただきます。

今日は、おめでとうございます。

基調講演：江戸名所としての隅田川

江戸東京博物館 学芸員 市川 寛明 氏



(抜粋)

江戸名所としての隅田川堤の成立

○ 堤の造築過程

川崎房五郎の寛政堤築造説

享保に植えた桜が相当枯れて、この時堤を高くす
面目を一新するほど新たに桜を植え足したのだが、
のことは知られていない。それ以前の墨田堤はそれ
が高くなく、三囲稲荷の石の鳥居の笠木だけが上に
風景を鳥居清長などがよく描いているが、それはこ
土手をずっと高くしてからのことである。



ると共に
割合にこ
ほど土手
出ている
の寛政に

歌川国芳「隅田川花見」 弘化から嘉永(1844~53)頃 当館蔵

* 歌川国芳「隅田川花見」=1844~1853

○ 隅田川の付け替え

江戸大割絵図をみると隅田川沿いに多くの土手が
築かれていることがわかる。「古川」は隅田川と大提
によって遮断されており、この大提がなければ隅田川
と直接通じる川であったはずである。この「古川」こそ、
大提によって堰きとめられた中世までの隅田川本流で
あったと考えられ、隅田川西遷説を裏付ける一根拠と
なるものといえよう。

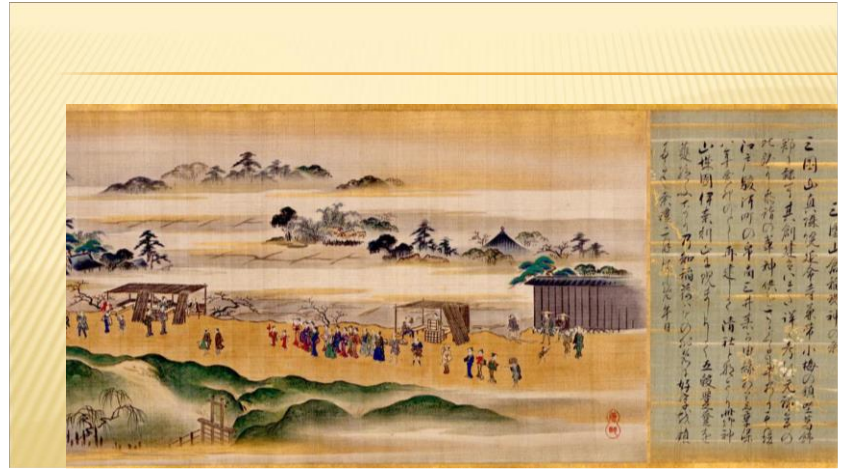
この「江戸大割絵図」の作成年代が天明期であるこ
とからすれば、少なくとも寛政に先行する天明期には
堤は高くなっており、寛政期に堤を高めたという理解
は成り立たない。寛政期の工事はあくまで小規模なも
のにとどまり、三廻神社の鳥居よりも堤が高くなったのは、江戸時代初期、隅田川の流れを付け替えた大規模工事が実施された時期まで遡る可能性が高いと考えられる。

天明2年～5年「江戸大割絵図」



○ 桜の植樹にみる民間活力

同所に梅・柳・桜を150本植増し、「根分・控継」といった植物としての手入れと、開花中の見回り番人役を隅田村名主・坂田弥次右衛門に命じ、1年に「人足賃肥」代として金4両と永111.3文の支払いを受け、不足分は、木戸番人や橋番人などにみられた典型的な手法、即ち、開花中に葎簀張りの簡易な茶店を出店してあげる収益をもって補うことになっていた。



花勸進の展開

嘉永7年の花勸進 発起人(5人),

法橋胡民(中山胡民, 1808-70)

寺島村出身の蒔絵師・原羊遊齋にまなび、茶道、俳諧にもすぐれた作品を残した。

青々抱二(田中抱二, 1815-85)

幕府の御用商人・光琳画風を再興した酒井抱一にまなび、同門の四天王のひとり・通称は金兵衛。

花勸進への参加者(19人)

歌川国芳門下の浮世絵師、歌川一英(1822-66)や清元・富本といった浄瑠璃の家元5家、著名な幫間桜川孝作など

明治7年の花勸進

○ おわりに

隅田川提が名所化するのには、8代将軍吉宗の事蹟によるところが大きいですが、その後は民間の力を活用しながら管理され、花勸進のような隅田川提を愛する人々の努力によって維持、発展してきた伝統があり、そうした伝統は明治維新後も維持された。

隅田川流域クリーンキャンペーン実行委員会 10周年記念シンポジウム

<パネルディスカッション>

*コーディネータ:土屋 十 圀 実行委員長が趣旨説明



市川 寛明氏・岡上 樹氏・大松 騏一氏・須永 俣子氏・菅谷 輝美氏・小泉 正行氏・佐藤純子氏



土屋 十 圀 実行委員長



市川 寛明先生



<パネルディスカッション>

話題提供=①「隅田川における東京都の取組」

東京都建設局 河川部 低地対策専門課長 岡上 樹 氏



1. 隅田川における取り組み

隅田川では、昭和50年までに、伊勢湾台風級の高潮に対応するため、コンクリートの防潮堤を整備した。その結果、治水上の安全性は確保したものの、防潮堤により人々の生活が水辺から遠ざかってしまったため、現在は親水性の高いスーパー堤防の整備を進めている。

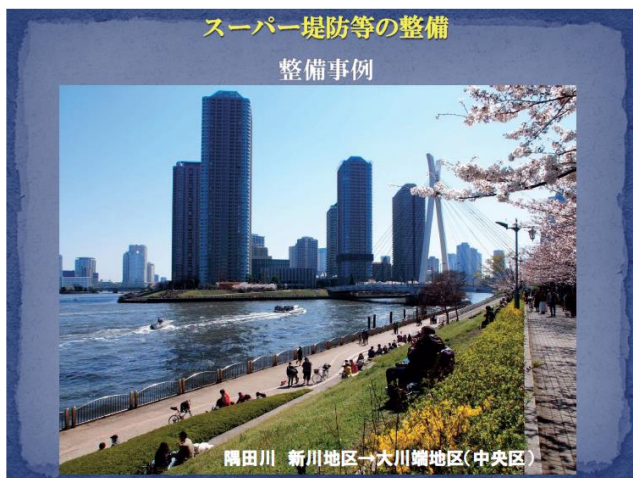
スーパー堤防は川沿いの再開発・民間開発等に合わせ、一体的に幅の広い盛土を行う堤防であり、地震に対する安全性や水辺環境が向上する。

また、川側では堤防の耐震補強と合わせ、人々が水辺を散策できるようテラスの整備も進めている。

現在、隅田川では、延長の約3割がスーパー堤防となっている。

強化していくため、平成24年12月に「東部低地帯の河川施設整備計画」を策定した。

本計画では、最大級の地震が発生した場合においても、各施設が機能を保持し、津波等による浸水を防止することを目的に、2020年までに全ての水門・排水機場や水門外側の堤防(防潮堤)の対策を完了し、水門内側の堤防(護岸)についても、2022年までに完成させることとしており、現在急ピッチで対策を進めている。



さらに、平成23年3月に発生した東日本大震災を受け、東京都では、地震・津波に伴う水害対策への取組を一層



2. 水辺のにぎわい創出に向けた取組

平成23年に河川敷地占用許可準則が一部改正され、イベント施設や船着場、川床などを民間事業者が河川敷地に設置することが可能となったため、水辺利活用の機運が高まっている。

都では、この機会を捉え、首都東京のさらなる魅力向上を図るため、民間による恒常的なにぎわいづくりに取り組んでいる。

河川敷地占用許可準則の改正 H23.4

- 1 広場
- 2 イベント施設
- 3 遊歩道
- 4 船着場
- 5 船舶係留施設又は船舶上下架施設
- 6 前号に掲げる施設と一体をなす飲食店、売店、オープンカフェ、広告板、照明、キャンプ場等
- 7 日よけ
- 8 船上食事施設
- 9 突出看板
- 10 川床
- 11 その他都市及び地域の再生等のために利用する施設

(河川敷地占用許可準則 第二十二第3項より)

オープンカフェ
(広島市:京橋川)

船上食事施設
(広島市:元安川)

広告板
(大阪市:道頓堀川)

川床
(大阪市:土佐堀川)

(1) 河川敷地におけるオープンカフェ

台東区二天門防災船着場付近において、平成25年10月、河川敷地におけるオープンカフェの第一号となるタリーズコーヒーとCafé W.Eが開店した。

隅田川沿いから東京スカイツリーが望める絶好のロケーションで飲食を楽しむため、年間9万人以上に利用されている。

(2) 「かわてらす」の社会実験

河川敷地許可準則が改正されたものの、川沿いの店舗が川床を設置するためには、協議会の設置など、実現に向けたハードルがある。

このため、隅田川と日本橋川の一部区間において、「かわてらす」の社会実験を行っている。

「かわてらす」とは、川床の東京版の名称であり、河川敷地の一時占用期間を1年から2年へと延長し、要綱の条件を満たす事業者が川床を設置することを可能としたものである。

平成26年3月、日本橋川において第1号店が誕生した。事業者や地元の理解を深めながら、今後、河川敷地占用許可準則を適用した「かわてらす」への移行を進めていく。



3. 隅田川等における新たな水辺整備

都では平成26年12月、「世界一の都市・東京」の実現を目指し「東京都長期ビジョン」を策定した。

この長期ビジョンでは、「東京を訪れる人を魅了する新たなにぎわいの創出」の施策の一つとして、「隅田川を軸とした快適で人々が楽しめる水辺空間の創出」を掲げている。

具体的には、隅田川を軸として、テラスの連続化、夜間照明の整備などを進め、東京湾・ベイエリアと都心を結ぶ水辺の導線強化を実施していく。

東京都長期ビジョン 平成26年12月

水辺の動線強化



さらに、「にぎわい誘導エリア」において、重点的な施策展開を進め、人々が集い、にぎわいが生まれる魅力的な水辺空間を創出する。

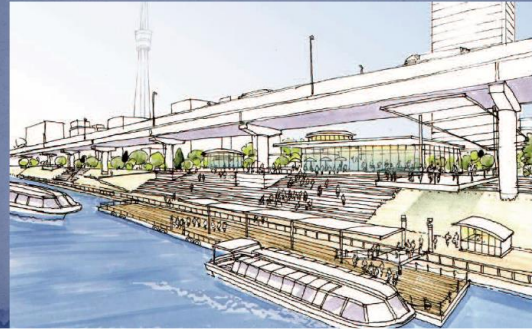
東京都長期ビジョン 平成26年12月

「両国エリア」

【リーディングプロジェクト】
両国リバーセンター

歴史・文化が息づく東京の顔づくり

既存の船着場の機能を高度化し、隅田川と周辺
観光施設・交通機関等との動線を強化



東京都長期ビジョン 平成26年12月

「築地エリア」

【リーディングプロジェクト】
築地リバーフロントターミナル

海・川・街を接続する隅田川の
玄関口の整備

海・川・街をつなぐ舟運ターミナル機能を
創出



東京都長期ビジョン 平成26年12月

水辺空間における 多彩なにぎわい・魅力の創出

隅田川を軸とした、
快適で人々が楽しめる水辺空間の創出

○東京湾・ベイエリアと都心を結ぶ
「水辺の動線」の強化

○「にぎわい誘導エリア」における
重点的な施策展開



加えて、防災船着場の設置拡大とともに、平常時利用を進め、舟運の活性化も図っていく。

防災船着場の一般開放

隅田川の桜橋・越中島・明石の3箇所の防災船着場を一般開放
6月から両国においても試行開始



東京都長期ビジョン 平成26年12月

「浅草エリア」

【リーディングプロジェクト】
北十間川プロムナード

浅草と東京スカイツリー®が
一体となつたにぎわいづくり

河川・道路・公園等の一体的な整備により、
二大観光拠点の周遊性を向上



東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催とその先を見据えながら、水の都東京の再生を進めていく。

=話題提供=② 「隅田川・日本橋川の舟運と景観」

NPO 法人 水都東京を創る会 理事長

大松 騏一 氏

1. 人々が親しむ水辺の創出を願って設立し、
常磐橋防災船着き場から「舟運」事業



日本橋のたもとの「滝の広場」に観光用の船着場が造られ、粋人丸で出航。防災船着場の開放により、舟運観光が盛んになった。



2. 船から隅田川・神田川・日本橋川の景観を観る



新しく加わった築地大橋



勝鬨橋はかつて、船の就航時に橋が開いた。



永代橋は勝鬨橋、清州橋とともに国の重要文化財に指定されている。



清州橋を燭台に見立てて中央にたった姿の東京スカイツリー



ライトアップされた姿など東京スカイツリーは景観にとっても強いインパクトをもたらした。



川辺の景観:墨田公園の桜



両岸のテラスに施された修景のひとつ



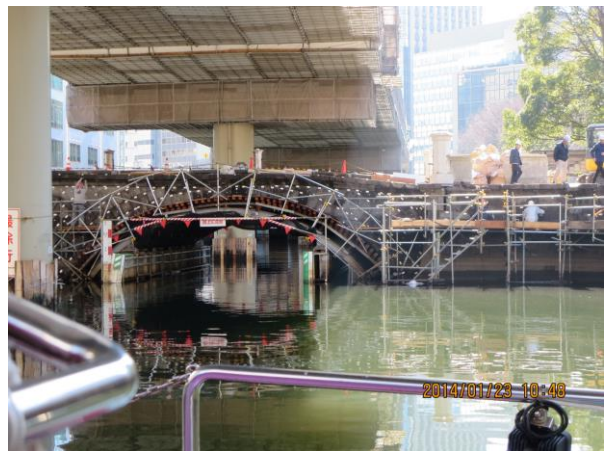
植込みが美しいスーパー堤防



小名木川河口の芭蕉像



「東京のパナマ運河」とか「船のエレベータ」といわれる扇橋閘門は体験コースとして人気



日本橋川の一ツ橋近辺には江戸初期に築かれた“打ち込みハギ様式”の石垣が残されている。

3. 川風と音楽とクルージングとの融合

新しい舟運プラン



船上でコルネット演奏を楽しむ「川風と音楽の夕べクルーズ」



防災意識の向上に役立ちたいと願い、防災船着場などを巡る「水辺から防災を考えるクルーズ」

4. おわりに



早期の撤去が望まれる日本橋川上の高速道路

＝話題提供＝③ 「江東内部河川と親水活動」

NPO 法人 江東区の水辺に親しむ会 理事長 須永 俣子 氏

1. 江東内部河川とは

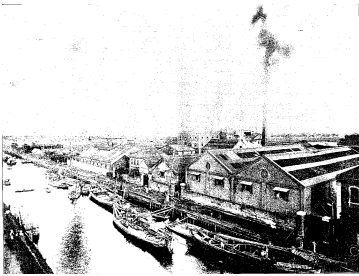
江東区には 19 の内部河川、12 の運河、隅田川、荒川、東京湾、合わせて 34 の水面がある。

水辺と共に歩んだ歴史【現代】

- 古代
 - 江東区のほぼ全域が海原にあった
- 中世
 - 利根川を始めとする川の氾濫原となる
- 江戸時代
 - 埋立
 - 舟運
- 近代
 - 工業化
 - 環境汚染
 - 水辺が嫌われる
- 現代
 - 水質の改善
 - ウォーターフロントへの注目
 - 水辺への関心高まる



内部河川は日本を支えた！



日本精製糖株式会社
第一工場全景
（「日本新聞」定期付録
明治38年7月13日発行）

- ・戦時中は軍事の重要拠点として。
- ・戦後は経済成長を支える水運の拠点として。

→「江東区の水辺」は日本を支えて来た自負がある。

江戸時代からの運河の変遷(小名木川)



・区を横切る小名木川は、徳川家康が水運のために作らせた。

オリンピックでは「内部河川で聖火リレーを！」



江東内部河川は日本を支えてきた。

江東内部河川の特徴は

- ① 水面が穏やかで親水活動がしやすい。
 - ② 人々の生活を支え、活きた文化がある。
- ことである。

2. 江東区の親水活動について

「NPO 江東区の水辺に親しむ会」は平成12年から活動を始めた。

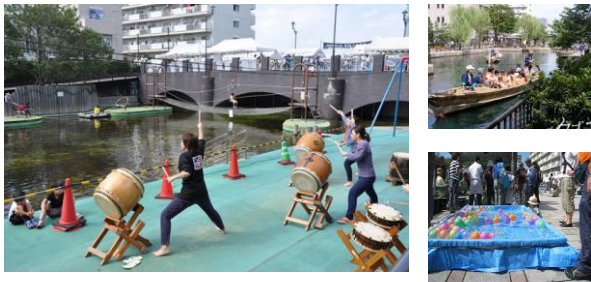
イベントによる街の賑わいを創出、リバーツアーによる水辺の街の個性アピール、行政や大学、地元商店街、住民などとの懇談会による水辺と緑を活かした街づくりの検討、水彩サロン開催による水辺についての学習などから、水辺からのまちづくり提案や地域と共に考えるきっかけづくりなどの活動も行ってきた。

リバーフェスタ江東



- ・毎年3月中旬に実施
- ・地元の方々と「旧中川・川の駅」を盛り上げる為に実施。
- ・和船やアクセステイニング、カヌーの体験も。
- ・現在の課題は、さらなる地域密着型のイベントとすること。

水彩フェスティバル

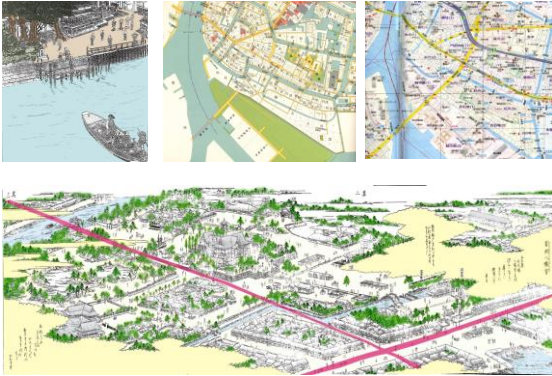


- ・毎年9月下旬に実施
- ・地域の方にも楽しめるイベントに

深川さくらまつり



記憶をたどる実験(交通社会実験)



水辺の体験リバークルーズ



記憶をたどる実験(交通社会実験)



ランタンパレード



- ・本年から3月中旬、9月末に実施
- ・地元の保育園児やワークショップ参加者がランタンを製作
- ・普段は薄暗く寂しい夜の水辺を穏やかな光が包んだ。
- ・3月の内容をより発展させ参加型とした9月は多くの参加者が訪れた。

3. これからの目指す親水とは

バリアフリーな親水への挑戦



アクセシビリティは、ハンデのある方でも安心して楽しめるヨットです

→ハンデのある方にも、水面に近づいて風や流れと一体になる感覚を味わっていただきたい！その想いから進めている活動です！

自然との調和



持続可能な水辺環境を考えるために。

→様々な親水活動が続けて行くために重要なのが、水辺の自然環境です。
良好な水辺環境なくしては、親水活動を広めることはできません。
専門家の知恵を拝借し、本格的な自然観察や調査、保全にも挑戦します。

伝統芸能とのコラボ



水辺と伝統芸能の相性の良さを活かして

→「能」や「狂言」など、日本古来の伝統芸能は水辺を舞台にした演目が多く存在します。
本物の奥深い世界を体感していただくために、これからも挑戦を続けます。

次世代へつなげる



より多くの子どもたちが水辺に集まるような工夫

「野外映画上映会」や「アクセシビリティ」「自然観察会」などのイベントで、少しでも多くの子どもたちが水辺に親しむような環境づくりを進めます。
こうした子どもたちがより良い「みらいの水辺」を作ると信じて。

まちづくりとつなげる



明治丸周辺整備の可能性

=話題提供=④ 「新河岸川水系をめぐる市民流域連携」

新河岸川水系水環境連絡会 代表 菅谷輝美氏

1. 新河岸川と荒川の河川整備の変遷



*岩淵水門＝荒川から分流した隅田川に
新河岸川が合流する

新河岸川は荒川水系の一級河川。

荒川は寛永時代に西遷された後、再び明治末期に荒川が放水路開削により流れが移った。新河岸川は九十九曲りと称された蛇行部分の大半を直線化し、併せて築堤され、岩淵水門まで開削され、荒川から分派した隅田川に合流するようになった。現在は小型船舶であれば、東京湾から川越まで通運は可能、災害時の流通路としても利用できる。

2. 新河岸川の舟運

舟運の舟は「高瀬舟」で川越から江戸へ農産物・建材・石灰等を、江戸から川越へ塩・日用品・肥料などを輸送し、江戸の金肥は「葛西舟」で運んだ。この様子を「江戸の奴らは川越の恩を糞で返す」と面白く語られた。

舟運は江戸と小江戸(川越)を結ぶ物流の大動脈となり、ゴミを発生させない江戸の循環型社会を支えた。写真の「ドロ面子」は、三富新田で見つかったもの。三富新田は元禄時代に開拓され、より多くの野菜を育て、作物は江戸に新河岸川の舟運で運ばれ、帰り船には畑の肥料として金肥やゴミ等を乗せて来た。その中にこの「ドロ面子」が混ざり畑に蒔かれたものとして出土した。

3. 新河岸川水系環境連絡会設立

新河岸川本川および各支川の全流域で、河川浄化、自然環境の保全・回復を図る活動をしている市民団体による市民科学、環境科学の普及・発展

させるネットワーク団体として、昭和 61 年 4 月に設立し



荒川の西遷



どろめんこ

時代 : 江戸時代に、子ども達のおはじき遊びとか、大人の祭りに使われたと推測される。

発見場所 : 所沢市中富・下富上富の畑(三富新田)一部川越。

考察 : 新河岸川舟運が盛んだった頃、江戸の肥料を畑地に運び込み、それが現在に見つかったもの。

新河岸川舟運の循環型社会が創造できる。川越・三富からはイモがはこばれ、一方江戸からは肥料ばれた時代があった証として残っている。



た。

4. 最近の主な活動事例

1)アユ調査とアユ料理

昭和 30 年代に汚れていた河川汚濁は近年は下水道

整備が進み水質が改善され、20年前から、新河岸川流域には荒川・隅田川を経て遡上する「アユ」が確認され始め、会では新河岸川流域全体での「アユの年間の生態調査」を実施している。調査は投網採取と水中カメラにて映像調査を実施。流域支流河川には遡上を阻害する河川横断物・堰・落差工がある。この対応も埼玉県河川行政と対応策の協議を継続している。併せて春には横断物に阻まれ遡上出来ないアユの稚魚を荒川・秋ヶ瀬で捕獲し、各支流の横断物の上流部への放流事業を内水面漁協と実施している。

遡上したアユは新河岸川流域の各河川で大きく成長して、夏の食卓を楽しませてくれますが、この体験を出来るのは、アユ漁をする周辺の人達に限られている。これからはもっと川の魚は食べても安全で美味しく食べられる事をアピールしていく事にする。

そして、アユの生息数を増やす試みとして、秋にアユの産卵調査も実施してる。図は今年10月に黒目川で実施した調査の結果である。この産卵調査は11月中旬まで続けられる。産卵したアユは新河岸流域から下り荒川を経て東京湾・お台場で冬を過ごし、来春新河岸流域各河川に遡上する。

アユ以外の川魚の食の復活に地域の公民館・保健所とも交流し川魚料理の普及に取り組み始めた。

小魚の甘露煮・釘煮・素上げ等の伝統調理方法を地域のお年寄りから教わり、学んでいる。川の恵みをこれからも大切にして、子ども達にも川の素晴らしさを伝えていく。

2) 市民と行政にて河川整備解決への合意形成

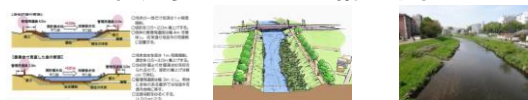
河川整備には上・下流。左岸・右岸と管理する行政区が違う箇所がある。計画段階で治水・環境を両立させる合意形成の仕組みを推進する為、毎年11月に埼玉県治水事務所と次年度河川整備計画を話合う『新河岸川流域川づくり懇談会』を開催している。合意出来た川は地



川の恵みを頂く、川魚の伝統料理の復活へ



住民参加の河川整備の取組



朝霞市・黒目川、当初計画を見直して整備されたアユが生息する川



清瀬市・柳瀬川落差工改修前(左)後(右)



東大和市・空堀川現地視察



東久留米市・落合川・腹岸を壊し緩傾斜の腹岸へ。子ども達が楽しく遊べる「いこいの水辺」域から大切にされ、市民は川を楽しみながら維持す

る事になる。

合意形成で整備された河川には多くの子ども達が訪れる。そして川で学んだ事を発表している。

この発表会は荒川下流事務所と一緒に企画をつめて、毎年、新河岸川流域の各地で持ち回りして小学生・中学生・高校生・大学生等幅広い世代が参加して開催してる。地域に伝わる伝統芸能の紹介もあり、楽しい交流会にもなっている。

川で繋がる発表会・流域伝統を子ども達が伝えます



河川整備について、行政と市民懇談会



この懇談会は埼玉県総合治水事務所と一緒に今後の工事について話し合います。オブザーバーには荒川下流事務所・リバーフロントの方々も参加しています。

3) 河川の総合生態調査

身近な川の調査として、水質調査を流域に定点 250箇所程設定し 20 年間市民の一斉調査継続している。水質以外にも河川生物・鳥・植生・水生昆虫も年毎にテーマを絞り実施している。

昨年の水生物調査は新河岸流域の調整池に流域で課題になっている「外来生物」の調査含めて実施した。新たな外来種「カワリヌマエビ」の発見に結び付き、今まで在来種のヌマエビとされていた、水生生物が異なる事が判り、今年3月のシンポジウムには、過去10年前から関東に進入していた事が明らかになった。又、調査の結果を「里川・水質マップ」を荒川下流河川事務所の協力を得て毎年 2000枚を製作している。流域の学校・行政施設・市民団体に配布し、マップは地域の小学校の環境学習等で活用されている

流域の様々な川と台地と子ども達との付き合い



流域の川にはアユが生息して、川は子ども達で溢れる。



4) 新たな「川ゴミ」ネットワーク設立

新河岸流域の水質は、下水道整備によりアユが生息するまでに回復した。しかし川には相変わらず都市生活の散乱ゴミがある。アユが生息している黒目川の上流域・東久留米市は、アニメ映画・河童のクウの舞台になっていた。河童のクウのクリーン作戦を少年野球連盟と一緒に秋に散乱ゴミ調査を実施している。更に川から海へ流れる川ごみ対策をしていくためには、全国的な取り組みが必要となり、「河川協力団体」「全国水マップ実行委員会」「荒川クリーンエイド」等と連携を組み、全国川ごみネットワークが今年8月7日に設立した。新河岸川水系水環境連絡会は発起人の一員として参加し、28年1月22日、川ゴミサミットを明治大学を会場に開催に向けて準備を始めている。新河岸水系・荒川・隅田川・東京湾への流域連携に参加をお願いします。

黒目川・河童のクウのクリーンエイド作戦



アユの生息する、黒目川。今年も市内の12の少年野球チームと市民・高校生徒、総勢500名で実施しました。

川のゴミが海へ、全国川ゴミネットワーク結成へ



【回収処理対策の成果】



【普及啓発・発生抑制の重要性】

漂流、漂着、海底ごみの多くは、

・川を経由して海に流出する生活や産業系のごみ
・加えて、漁業・水産物に伴う漁網や漁具等



= 話題提供 = ⑤ 「隅田川・臨海域の水質と生き物」

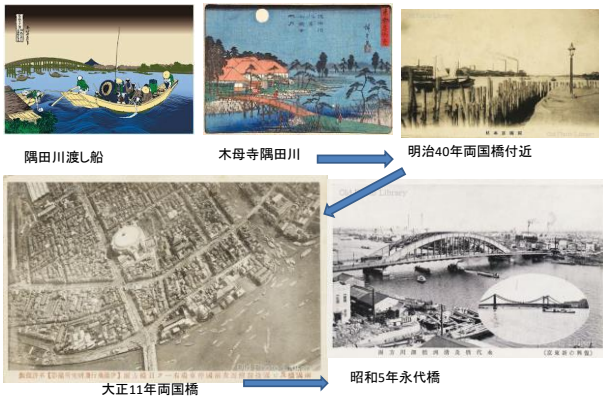
元 東京都島しょ農林水産総合センター 小泉正行氏

1. 環境改善の歩みと現在の水質

隅田川には、昔は入江や浅場などいろいろな自然があり、たくさんの生き物のすみかがあった。人々はシラウオやシジミを味わい、水泳を楽しむこともできた。ところが、高度経済成長期の昭和 30 年代半ばには悪臭が発生し、地域住民の健康にまで悪影響を与え、生き物がすめない川になってしまった。そこへ、オリンピックを迎えることとなり、下水道の普及や汚濁源を元から絶つために工場等の排水規制指導、利根川からの水の導入など各種の行政施策がとられ、昭和 41 年頃から水質は徐々に改善されていった。そして、昭和 53 年に“両国の花火”、“早慶のレガッタ”がともに 17 年振りに再開されるようになった。



いにしへの川の様子



隅田川水系の水質と下水道

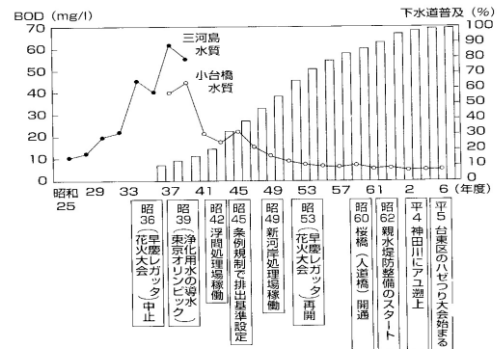


図 16-3 隅田川水系の下水道普及率と水質の推移

また、小台橋や両国橋の底質データから、平成 10 年頃より硫化物濃度と溶存酸素量が回復していく様子がわかる。

隅田川の記録 江戸時代の深川のシジミ、ウナギ、昭和のシラウオ

3. 名物という文化の成立

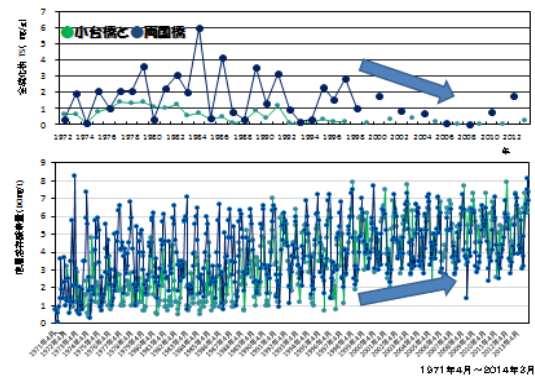
名物は様々な分野から注目される。一般庶民にも実用性・娯楽的な情報として求められ、徳楽しました。こうした名物に対する関心や名物を取りまく文化を生み出すことで、庶民の生活や意識の向上に貢献する。歴史文化の向上、また文人などの知識階級にもとづく関心などがあげられます。

「隅田川」は江戸時代を通じて重要な交通の要路であり、その発展を支えてきました。江戸時代を通じて、隅田川は「隅田川」の名で知られ、その発展を支えてきました。江戸時代を通じて、隅田川は「隅田川」の名で知られ、その発展を支えてきました。

シラウオは昭和8.9年に13,000貫 (約49t) 東京湾内漁獲量興亡史 (1971)

業平橋 (スカイツリー付近) の名物 深川シジミなどの記述。今は、二面板張り で泥干濁はない!

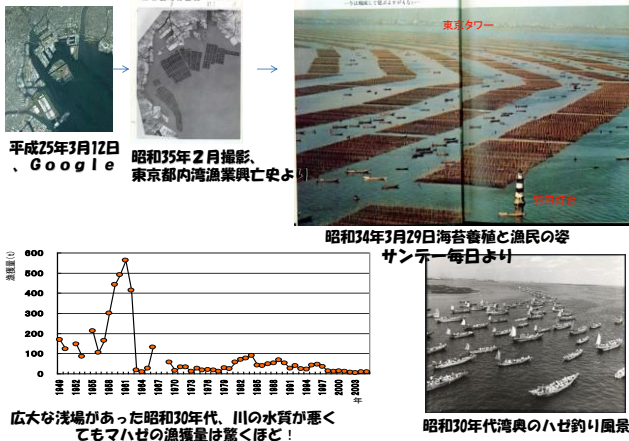
隅田川の底質データ (全硫化物と溶存酸素)



(安藤の整理資料を用いて作図)

一方、昭和 30 年代半ばの東京湾奥では、川の汚濁がひどかった年代であるのに、釣り人を乗せた百隻を優に超えるハゼ釣り船が浅場を取り囲む光景がみられ、当時のマハゼ漁獲量はピーク時に 500~600 トンの水揚げを記録する極めて生産性の高い海であった。なかでも、泡立つ魚道と浅場を囲むハゼ釣り船の相反する 2 枚の画像から、広大な浅場は漁業と連携して魚介類などの成育機能を何とか維持していたことがうかがえる。干潟は重要！

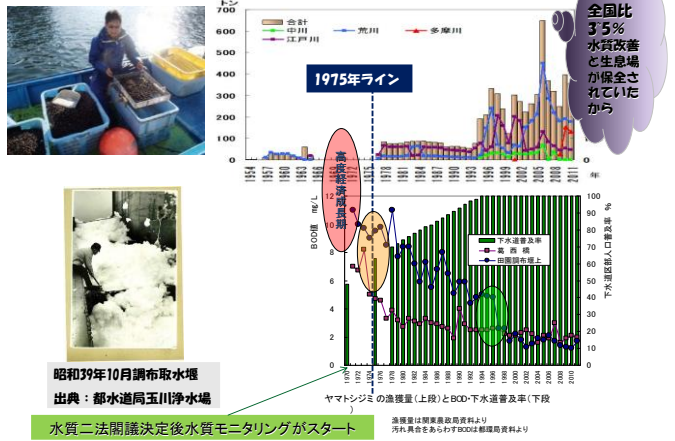
高度成長期の湾奥。川の汚濁⇔内湾の生産力！



(2)隣接河川における“シジミ漁”の再開

近隣の荒川・中川・旧江戸川をはじめ多摩川では、水質の改善とともにヤマトシジミが増え、漁獲統計に再び載るようになった。現在、数百トンが漁獲されている。それらは、泥干潟などの浅場が残されていたからこそ復活できたわけで、生息場の保全がいかに重要であるかをあらわす。

隣接の荒川など水質改善によりシジミ増え



2. 水質改善効果が表れた事例

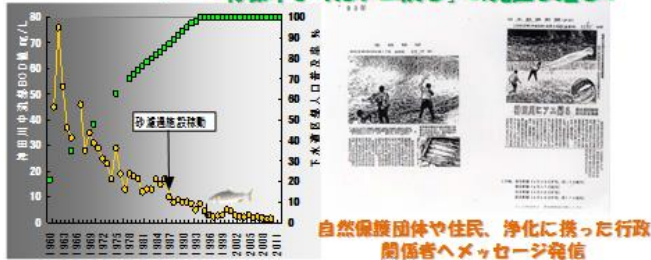
(1)神田川に戻ったアユ

処理水が大半を占める神田川では、下水処理の普及と技術改善により、清流の女王といわれるアユの遡上が平成 5 年に 40 数年ぶりに確認されるようになった。

H5年 採捕の光景マスコミ関係者100人ほど



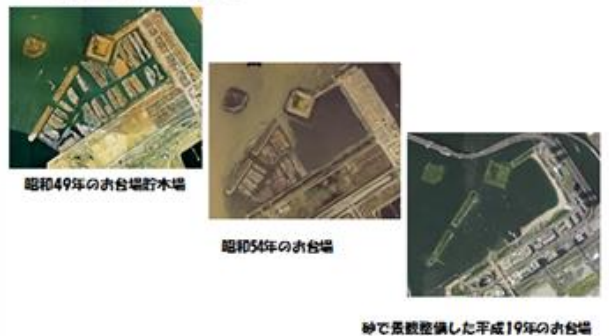
「40数年ぶりにアユ戻る」の見出し躍る！



シジミ漁 隅田川と隣接河川のちがい



お台場の変化



3. 環境整備が生物増殖に貢献した事例

お台場はかつて貯木場であった。ヘドロがたまって生物がすみにくかったが、覆砂による景観整備（浅場造成）が行われたところ、多様な生物がすむようになった。なかでも、平成16年の潮干狩りは活況を呈し、アサリの総収穫量は、4～6月の約2ヵ月間に約16～20トンと推定された。その後も、毎年、潮干狩りができるようになり、環境学習も行われている。なお、造成後18年がたつ今も、覆砂の影響が及ぶ場所は、そうでない場所と比べて二枚貝の生息量は歴然としている。



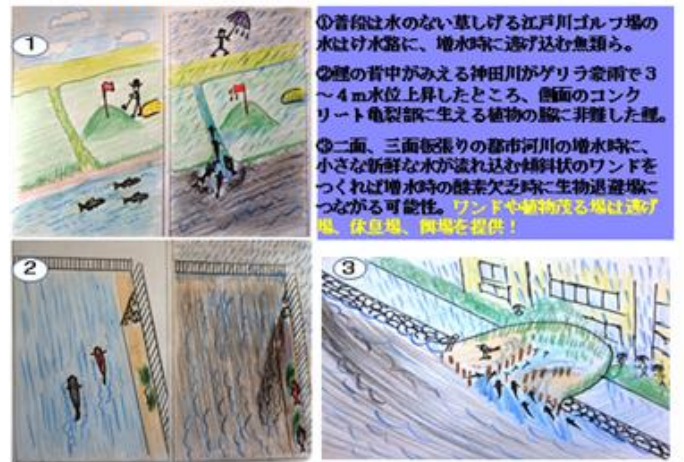
4. 生物調査や行動観察からみえてくるもの

バケツや空き缶の中でボウフラが増えるように“生物はそれぞれの生活に必要な場をつくれれば嫌でも増える”ことを念頭に、生物豊かな場を創造することが重要といえる。例えば、行政が実施した調査資料から隅田川水系におけるワンドの重要性は指摘できるし、生物の行動観察から意外なヒントがみえてくる。このヒントをもとに描いた生息場づくりの参考図も紹介しておきたい。

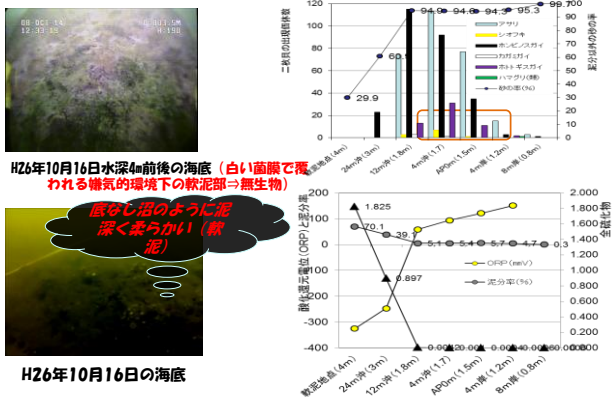
一つは、江戸川の増水時に河川敷のゴルフ場の水はけ水路に魚類などが避難するケース。もう一つは鯉の背びれがみえる神田川で、ゲリラ豪雨により一気に水位が3～4m上昇し流れが強くなったおりに、コンクリート壁の亀裂部に生えた植物の根元に鯉が避難するケースである。

これらの事例を参考にすれば、新鮮な雨水が流れ込む小さな傾斜ワンドをつくれれば、増水時の濁水や酸素欠乏時における生物退避場になることが考えられる。

生物の行動から描いた生息場づくりのヒント



覆砂効果を潜水と底質データで確認



H18年お台場の光景 硝化物に着目した日



=話題提供=⑥ 隅田川と三社祭舟渡御

舟宿 小松屋 女将 佐藤 純子 氏

1. 舟宿及び屋根船の歴史

昭和2年に、現在の神田川が隅田川に合流します最後の橋、柳橋のたもとに舟宿小松屋を開きました。その当時、柳橋の船宿は5軒。小松屋の持ち船は、荷足船2隻、網船1隻、和船、ボートなどがありました。中川土手の五色桜に花見船、お台場のすぐ先で、ハマグリやアサリを獲る潮干船を出しました。

昭和5年に屋根船[P1]を造り、近隣の船宿もすぐに作り始めたそうです。夏になれば、暑くて寝苦しいものから、横山町の間屋の小僧さんが、朝6時からボートを乗りに来て行列。1時間30銭と祖母に聞いたことがあります。釣りも、6月の鱈、秋のボラ、セイゴや黒鯛もよく釣れたそうです。ハゼ釣りが、昭和の初めて1円20銭、お弁当が10銭でした。

投網も盛んに打っていました。柳橋という料亭街を控えて、料亭さんから政財界・間屋街の大旦那さんなどが、涼み船を楽しまれました。

両国の川開きは、60隻ほど船を借りて、準備に追われ3,4日は徹夜続きだったそうです。

今は亡き昭和3年生まれのお父さんが小学生の頃までは、橋から落し物があると頼まれて、潜って拾い上げたと言いました。川の水が澄んでいて、神田川、隅田川で泳いで遊んでいたということで、私からすれば羨ましいかぎりです。

昭和20年3月9日の大空襲で家は焼けましたが、柳橋の下の船は、祖父や父たちが、一晩中水を掛け続けて燃やさずにすんだと言いました。

柳橋の料亭「稲垣」の大旦那さんが、「そろそろ舟が恋しいよ。」と言われて、22年に柳橋に戻ってくるまでは、小松川で漁師をしていました。戦後初めての屋根船を料亭「稲垣」で1隻、私どもで1隻作りました。

昭和23年、両国の川開き花火が復活。[P2]柳橋料亭組合長から相談を受け、祖父や父も、日時、許可、打ち上げ場所、警備などの対応に追われましたが結果的には大成功に終わることができたそうです



屋根の取り外しのできる屋根舟



「両国花火組合」運営による花火大会（昭和24年）（写真提供 吉田幸雄氏）
向かって左から料亭・様敷・舟 奥に総武線鉄橋が見える

す。現在とは違い、柳橋の料亭組合が中心となった「両国花火組合」が全て運営していました。行政が手掛けてはいなかったのです。この写真は、料亭の前の大川に川床(かわどこ)を組み立てて、舟を並べ、[P3]目の前で花火を打ち上げる準備中となります。

また、川開きが花火なら、川納めが「龍灯祭」[P4]で昭和29年9月10日に復活しました。大きい紙張りで作られた見事な龍を船にあしらい、隅田川神社の宮司さんのほか大勢の神官の方が乗り込み、大川で亡くなられた方たちの霊を慰め、灯籠舟が70隻くらい集まってお客さまを乗せ、筆でそれぞれの思いを灯籠に書いて大川に流しました。きれいに装飾した台船[P5]に柳橋の芸者衆が乗り込み三味線を弾き、踊りの名妓5、6名が見事な芸を踊り舟で披露しました。川面にゆらゆら揺れる灯籠の灯火。その華やかさは今でもはっきりと覚えているほどです。料亭の前にずらりと黒いハイヤーが止まり、柳橋の料亭も舟遊びも全盛。とても華やいだ時代でした。

墨堤の花見も[P6]、川でも陸上でも大賑わいでした。細川流の投網の名人[P7]と言われた父が、腕を振っていました。また、冬の時季に海苔の養殖をして、江戸前の美味しい海苔も作っていましたが、これは真冬の海に体をさらすため、つらかったようです。



龍灯祭（昭和29年9月10日復活）



戦後間もない墨堤の満開の桜 護岸のない土手の様子



細川流 投網名人（父）

昭和30年、40年代と高度成長期になり徐々に隅田川の汚れが進み、両国の花火も昭和36年までで、終わりを告げました。写真は、護岸ができる前[P8]の、右岸から柳橋を撮ったものです。神田川と地上が近いことが分かりやすいですね。

このころ、朝にお櫃の銅の籠(たが)[P9]を、ぴかぴかに磨いても、夕方には緑青が吹いてしまい、しょっちゅう磨くの追われたそうです。ハゼ釣りも出船していましたが、釣れる数が目に見えて減っていきました。

正月2日には、初釣りとして、その年初めてのハゼ釣りが行われ、たくさんの釣り人がいらしたのですが黒くなってしまった川の底から、ぽこぽこっとメタンガスが噴き出し、臭う川となりました。お客さまの足も徐々に遠のき、隅田川から屋形舟の姿が消えました。その間、四谷荒木町に天ぶら店を昭和44年に開き、舟宿は開店休業とならざるを得ませんでした。



護岸ができる前の柳橋（昭和36年頃）

昭和 51 年 10 月、柳橋の料亭「小安」の女将さんから電話が入り、「隅田川に魚も戻ってきたから、また舟を出してよ[P10]。」と言われ、隅田川を見に父母が早速来てみると、ポンポンとボラが飛び跳ねていました。そして、昭和 52 年 6 月 17 日に、江戸中期から伝わる木造の百十数年振りの屋形舟を復活させました。翌年、屋形舟と、釣り船に津軽三味線の奏者 4 人を乗せ柳橋からお台場に並びながら向かった時です。お台場近くになったとき、三味線の音に驚いたボラが 2 隻の船に何匹も飛び込んできました。お客さまも船頭さんも本当に水がきれいになったんだと実感し、驚きと同時に珍しい体験に大喜びしていました。のどかな時代でした。

昭和 53 年に、台東区・墨田区により名称も変えて、「隅田川花火大会[P11]」が復活しました。昔のことをよく知っている父も、いろいろな所から教えてほしいとのことで、あちらこちらに出向いていました。翌年には、隅田川での早慶レガッタも復活しました。

7, 8 年の間、私どもの小松屋の屋形舟のみ走っておりましたが、釣り船を営んでいる船宿が屋形船を作り、現在では 200 隻以上となり、隅田川を上り下りして賑やかにしております。

2. 三社祭舟渡御復活

平成 24 年 3 月 18 日[P12]、「三社祭齋行七百年祭 浅草寺本尊示現会 舟渡御」が執り行われました。

浅草寺の本尊は、西暦 628 年隅田川下流で漁をしていた兄弟が網の中から見つけた一体の観音様の仏像でした。(兄弟の名前 檜前浜成ひのくまのはまなり・竹成たけなり) 当時郷土の豪族 土師真中知(はじのなかとも)に見せると、これを機縁に出家して自宅を寺にして観音様を供養しました。

浅草寺の元を作られたこの 3 人を祀った神社が浅草神社となります。江戸時代末期まで、浅草寺本尊示現会(浅草神社から 3 人の御霊の乗った宮神輿が浅草寺の本堂に入る「堂上げ」で一晩過ごす。「堂下げ」出られる時の時、記念の祭礼では「舟渡御[P13]」が行われていましたが、その後、行われなくなりました。この浅草寺本尊示現会は平成 12 年から復活しました。「舟渡御」は、戦災にあった浅草寺本堂の再建記念として、昭和 33 年に一度だけ復活しました。

平成 21 年秋に七百年祭の記念として舟渡御を行いたいのお話をいただき、屋形船東京都協同組合として検討を重ねました。



再開した花火大会 乗り込み

13



再開した花火大会
打ち上げ前の会場の様子

14



袴姿の氏子の皆さんが乗船、
揃いの袴纏の船頭衆がお世話して二天門棧橋に向かう

17

平成 22 年 8 月に、浅草寺観音奉賛会・浅草神社奉賛会・浅草観光連盟を中心に組織された「舟渡御実行委員会」を、浅草神社で 1 回目の会合が行われました。その後、23 年に入ってから、月一回の開催で、船の形や数、時間の決定、中止基準、船の確保、船団の隊形組み、関係機関に提出する書類の作成などなど多くの事に追われ、書き直した書類だけで 15cm 以上の厚さにもなりました。何度も何度も、運輸局、警察、消防に出向いて、店にすることがかなり少なかったことを覚えています。54 年振りの舟渡御復活ですので、資料も少なく写真も数点のみ。当時の船など、そもそもその形の船も無く、どのようにするかから始まりました。

また、隅田川の護岸や堤防のテラスなどが当時は無かったわけですから、検証できることは実際に船を出して、水流の速さ、橋がくぐるかなどを確認して、全て手さぐりの作業となりました。

荒天時の中止判断をするため、前日は、事務所に泊まり込み、朝 5 時 30 分に船団責任者と相談。曇ってはいましたが風はなく穏やかな日和でしたので、斎行決定とし、実行委員会事務局長に理事長(夫)が連絡しました。

当日[P14]、平成 24 年 3 月 18 日(日)午後 2 時 10 分、雨に打たれ冷え込むなか、舟渡御が始まり、堂々たる船団を多くの見物客が、川岸から、橋から、そして川沿いの家々やビルから、「おめでとう」と声を掛けられ感激しました。

全長 360 メートル、24 隻ものいろいろな種類の船が大船団を組み[P15]、二天門棧橋から両国橋まで行き、戻ってきて駒形橋で[P16]午後 4 時に御神輿が、無事上陸いたしました。宮神輿 3 基を台船に、金龍の舞・白鷺の舞・びんざさら・福聚(ふくじゅ)の舞の七福神・芸者衆・お囃子神楽・屋形船などなどです。65 万人の方々が見守ってくださいました。

写真のようなきらびやかな衣装も、本当に華やかなものでした。

組合の船頭さんたちは、奉賛会の揃いの茶袴纏を着て、なかなか良いものでした。雨で濡れてしまいましたが、私も初めて、奉賛会の袴纏を着てお客さまの誘導をしておりました。

この歴史的な神事に参加できたことは、大変うれしく誇りに思えることでした。次代を担う組合員に伝えていくべきものと考えております。



福聚の舞の七福神など船 5 隻を先頭に、船団隊列が続く

18



芸者衆も傘を添えて

20



駒形橋付近にて神輿が上陸

21



神輿の横幅に比べ陸上へのスロープの幅が狭く、手すりも高い中を神輿用台車を作ってなんとか神輿が上陸

22

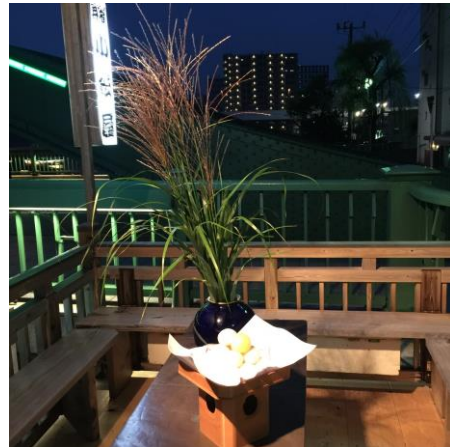
昔からの舟遊びを忘れることなく、例えば、クーラーを

神田明神江戸神輿宮入 東日本橋二丁目町会の人々と

平成15年5月11日



23



中秋の名月
月見舟

24

消して窓を開け放ち川風を楽しむ、舟の中でゆっくり景色を楽しみながら日頃の喧騒を忘れ語り合うひと時を持つなど、一夜の思い出として残るのではないのでしょうか。

思い返すと[P20]、私が育ってきた頃は、高度経済成長時と重なり、海や川が汚くなっていく時代でした。それでも、小学生の頃、ハゼを何百匹と釣ったり、父が知っていた数少ないきれいな海に船を出し潮干狩り、海水浴に同級生を招いて楽しんだりした最後の世代だったのかもしれない。

現在、スズキやボラが隅田川で跳ねています。ハゼや蟹も戻ってきました。

この隅田川を皆さんと共に守り、今よりもっときれいな川を目指していきたいと思います。私事ですが、今年、孫が2人誕生して、3人の孫を持ちました。その子たちの母親も隅田川を見て育ちました。娘たちは、海水浴も潮干狩りもしたことがありません。水がきれいだからこそできる楽しみを残念ながら、させてあげることができませんでした。これから孫たちが成長して成人式を迎える頃、私が体験した遊びができるようなきれいな川や海に戻るでしょうか？

3. 隅田川とのつながり

このように、神事と船宿は、昔から関係が深く、現在でも大祓い・形代流しなどが屋形舟で多く行われています。私どもで言えば、氏子である神田明神や、水天宮、鳥越神社などとなります。各船宿が各地域地元の神事に船を出してあります。神田明神の神田祭[P17]では、2003年5月11日に、390年振りに船渡御を東日本橋町会で行い、今年の5月10日にも船渡御をして舟を出しました。万世橋からクレーンで吊り上げる御神輿を見るために大勢の人々が集まりました。

地域の方たちとは、神事のみならず、町会での舟遊びあるいはハゼ釣り大会や、防災訓練、社会科見学、隅田川でのいろいろな種類の船舶を出しての安全航行パレードなどにも参加しております。これからも、地元の方たちと共に、水に親しむ生活の良さを広く伝えていければ良いかと思っております。

4. これからの屋形船と隅田川への想い

5年後の東京オリンピックの開催も決まり、外国からの観光客も年々増加しております。またここ数年、河川内・港湾内の棧橋の開放、新規設置の計画、新たなオリンピック関連の施設の建設などがあり、屋形舟の事業者も新しい周遊コースなども考えられることと思います。用途により船の形や大きさも変わってくることと思います。

時代の移り変わりによって、さまざまな楽しみ方はありますが、初めて屋形船に乗られる方にも外国からのお客さまにも、江戸時代から伝わる大川での舟遊びを楽しんでいただければと思います。

昔からの四季折々の楽しみ方があります。

中秋(ちゅうしゅう)の名月には、ススキと月見団子を供え月見を楽しむ月見舟、[P18]墨堤の満開の桜を愛でる花見



墨堤の満開の桜を愛でる花見舟

25

舟[P19]、ちらつく雪の中をいく雪見舟、夏の花火や涼み舟などです。

甦っていくことを心より願っております。

隅田川流域クリーンキャンペーン実行委員会 10周年記念シンポジウム

第一部 シンポジウム会場風景(台東区立 台東区民会館)

参加者 87 名(一般参加者 57 名)

* 総合司会: 宮本 恭介 副実行委員長 開会宣言



会場



* 中央大学大学院生が応援

* 宮崎実行委員が VTR でシンポジウムを記録



隅田川流域クリーンキャンペーン実行委員会 10周年記念シンポジウム

***** 質疑応答 *****

<Question>



<Answer>



* 第一部シンポジウム終了 閉会の辞=藤原 事務局長



第二部：隅田川・東京湾臨海域クルージング

……………二天門船着場から水辺ライン“あじさい”に乗船、18時00分出航……………

＜参加乗船者 47名＞



＊二天門船着場寸描

10周年記念シンポジウムを終了し、二天門船着場から隅田川を下り東京湾臨海域へナイト・クルージングを楽しむ。

都市の河川は人工化され、本来の自然を失った河川は汚染されてしまい、街の建物は川に背を向けた景観となり、人々は水辺から遠ざかってしまった時代がありましたが、隅田川の水質も改善され人々が水辺に近付いて来るようになりました。

江戸時代来日したスイスの全権特使エーメ・アンペールという人は、隅田川を見て「水の都ベネチアの大運河カナルグランデの流域に似て、華やぎのある水辺に人々の生活が展開されていて素晴らしい水辺」と感激したと書き記しています。



＊クルーズ交流↓↑ ＊クルーズガイドは坂元俊久実行委員 ＊中央大学大学院学生も



「10周年記念シンポジウム」

後援・協賛・協力・参加行政機関・企業・団体関係御芳名

I. <後援行政機関・財団>

- *国土交通省関東地方整備局 *東京都建設局
*中央区 *台東区 *墨田区 *江東区 *隅田川ルネサンス

II. <助成・協賛企業・団体>

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 公益財団法人 河川財団 | 株式会社建設技術研究所 |
| 三井共同建設コンサルタント株式会社 | 大豊建設株式会社 |
| 東京都観光汽船株式会社 | サンテックインターナショナル株式会社 |
| 江東エコリーダの会 | 隅田川市民交流実行委員会 |

III. <協力・参加事業所・財団>

- *東京都建設局河川部 *第一建設事務所 *第五建設事務所 *第六建設事務所
*江東治水事務所 *(公財法)東京都公園協会水辺事業部・同環境事業部(清掃船)

IV. <参加企業>

<団 体>

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 株式会社 さんれい フーズ(一路会) | 江東区の水辺に親しむ会 |
| 日本海工 株式会社東京支店 | 神田川ネットワーク |
| HARIO 株式会社 | 中央大学大学院理工学部河川水分研学生 |
| 山陰酸素工業株式会社 | |
| 株式会社 水文環境 | 一般参加個人 |
| UPS ジャパン株式会社 | |



*台東区民会館の会場設営に当って多大なご協力を下された、台東区環境清掃部様に衷心より御礼と感謝を申し上げます。併せて、関係各位のご協力を厚く御礼を申し上げます。

平成17年～平成27年隅田川クリーン大作戦（実施別）参加者数

10周年記念シンポジウム及び隅田川・東京湾臨海域クルージング

参加者数一覧表

平成27年10月24日

回数・実施年度	応募参加者	関係スタッフ	合計
第一回平成17年3月19日（土）	175名	47名	222名
第二回平成19年6月23日（土）	95名	40名	135名
第三回平成20年6月21日（土）	113名	36名	149名
第四回平成21年6月20日（土）	112名	46名	158名
第五回平成22年6月19日（土）	103名	60名	163名
第六回平成23年6月18日（土）	109名	55名	164名
第七回平成24年6月16日（土・雨天）	90名	65名	155名
第八回平成25年6月15日（土）	117名	64名	181名
第九回平成26年6月21日（土）	157名	53名	210名
第十回平成27年6月20日（土）	150名	66名	216名
*平成27年10月24日10周年記念シンポジウム&隅田川・東京湾クルージング参加者			
第一部 記念シンポジウム参加者：	69名	18名	87名
第二部 隅田川・東京湾クルージング参加者：	30名	17名	47名
延べ参加者数	1,320名	572名	1,887名
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> *清掃ルート及び範囲全長≒8.0Km. 1ルート平均≒4.0km </div> ルート①：勝鬨橋⇒ ルート②：桜橋右岸⇒ 浜町公園スーパー堤防まで、平均4.3Km ルート③：石川島公園⇒ ルート④：桜橋左岸⇒ *平成22年3月28日財団法人東京都公園協会奨励賞（ボランティア部門）			

プチ・隅田川クリーン大作戦実施参加者

平成27年10月11日

実施回・実施年月日 応募参加者 関係スタッフ 合計

第一回：平成21年5月15日（金） 127名（教師8名含む 30名 157名

*本件は東京都建設局河川部からの紹介で、「山形県山形市立中学校3年生」の東京修学旅行最終日に隅田川流域の清掃をしたいとの要請に答えてじっししたものです。

これが継起となり各方面からの要請があつて「プチ・隅田川クリーン大作戦」を実施することとなった。（

*勝鬨橋、桜橋右岸、左岸⇒浜町公園スーパー堤防までの3ルートを設定実施した。

.....

「プチ・隅田川クリーン大作戦」清掃範囲は「吾妻橋～桜橋間」の兩岸を設定

参加者 スタッフ

第二回：平成22年10月9日（土） 22名 6名（ごみ収集3名） 28名

*本件は「主婦と生活社」の取材協力に答えて参加者を募集して実施したものです。

企業（社会貢献）と市民団体から参加。隅田川市民交流実行委員会と共催

第三回：平成23年10月15日（土） 62名 6名（ごみ収集3名） 68名

*UPS ジャパン株式会社社員・家族を中心に及びH R I O株式会社

**今回から：午前9時45分集合～午前10時作業開始、午前11時30分終了。

清掃ルート：吾妻橋⇒桜橋間右岸・左岸の2グループに分かれて桜橋左岸までを清掃。

第四回：平成24年10月20日（土） 62名 11名（ごみ収集3名） 73名

*企業4社を中心と個人

：UPS ジャパン株式会社社員・H A R I O株式会社ほか

第五回：平成25年10月19日（土） 46名 7名（ごみ収集4名） 53名

*参加企業3社：UPS ジャパン株式会社社員・家族を中心に、日本海工株式会社社員、

損保ジャパン株式会社社員

**第二回～第五回では毎回USP子供（幼児を含む）が4～8名が参加されている。

第六回：平成26年10月25日（土） 62名 11名 総勢73名

参加者の内訳：

①UPS ジャパン株式会社一社：社員・家族<大人43名・子供19名(幼児・小学生)>

② 東京都公園協会(新川事務所3名 同清掃車4名

③ 実行委員会スタッフ；4名（石川・清水夫妻・藤原） 総勢73名

第七回：平成27年10月10日（土） 46名 11名 総勢57名

① UPS ジャパン株式会社一社：社員・家族<大人36名・子供10名(幼児・小学生)>

② 東京都公園協会(新川事務所3名 同清掃車2名

③ 実行委員会スタッフ；6名（坂元・石川・佐山・清水夫妻・藤原） 総勢11名

延べ参加者数 427名 82名 509名

隅田川流域クリーンキャンペーン実行委員組織

平成 27 年 10 月 24 日

実行委員	氏 名	所 属 団 体
実行委員長	土 屋 十 圀	前橋工科大学名誉教授
副実行委員長	宮 本 恭 介	中央区環境土木部
事務局長	藤 原 隆	NPO 水都東京を創る会
事務局	中 瀬 勝 義	環境カウンセラー
	石 川 良 一	元・旅行社
監 事	須 永 俣 子	NPO 江東区の水辺に親しむ会
	宮 崎 重 成	東京都第五建設事務所
	池 端 幹 男	NPO まちなみ育成会
	佐 藤 武	隅田川を愛する会
	村 山 隆 司	工学院大学講師
	清 水 靖 久	NPO 江東区の水辺に親しむ会
	市 川 清 次	前・いであ、元国土交通省国土地理院
	阿 部 美 和	江東エコリーダの会
	坂 元 俊 久	(財) 公園協会隅田川リバーガイド
	前 田 研二郎	環境カウンセラー
	佐 山 公 一	みずとみどり研究会
	風 間 真 理	環境局自然環境部水環境課
	小 泉 正 行	東京都内湾漁業環境整備協会
	鈴 木 俊 一	隅田川市民交流実行委員会
	江 戸 正 人	福岡都市技術株式会社
	井 上 富 雄	いであ 株式会社
	島 尻 茂 樹	桃園川サロン
	倉 光 康 夫	環境カウンセラー
	寺 田 浩 之	ココペリプラス
	安 藤 誉 和	独立法人 都市再生機構
	高 橋 佑 司	U・W・JAPAN (株) リクルート

主 催：隅田川流域クリーンキャンペーン実行委員会

後 援：国土交通省関東地方整備局・

東京都建設局 隅田川ルネサンス

中央区・台東区・墨田区・江東区

協 賛：公益財団法人東京都公園協会

株式会社 建設技術研究所

三井共同建設コンサルタント株式会社

大豊建設株式会社

東京都観光汽船株式会社

株式会社サンテックインターナショナル

江東エコリーダーの会

隅田川市民交流実行委員会

報道協力：東京新聞（PR）・共同通信社（配信）

＝10周年記念 シンポジウム開催報告書＝

発 行 隅田川流域クリーンキャンペーン実行委員会

発行日 平成 28 年 3 月

発行人 実行委員長 土 屋 十 圀

編集人 事務局長 藤 原 隆

中 瀬 勝 義・風 間 真 理・寺 田 浩 之

〒111-0036 東京都台東区松が谷 4-17-3

Tel/fax:03-3841-0677

携帯：090-5303-0677

male : t.fuji-taito@jcom.home.ne.jp